

集会アピール

私たちは11月22日～24日の3日間、広島市で平和・人権・民主主義を考える第49回全国高校生集会を開催しました。

1日目は、幡多高校生ゼミナール顧問の山下正寿さんから「核被災に向きあう高校生たち」というテーマでお話を聞き、「ビキニの海は忘れない」というドキュメンタリー映画の一部も観ました。私たち多くの高校生がビキニ事件といっても第五福竜丸のことしか知りませんでした。1980年代なかばに当時の高校生が被曝した漁師にインタビューをする中で、日本中の1000隻を超える漁船、たくさんの漁師が死の灰を浴びて被災していたことがわかりました。また、ビキニ事件直後の1954年5月に室戸岬水産高校の3年生が八丈島で操業実習中に、体調を崩し、その後しばらくして死亡したということを知り、衝撃を受けました。元気な高校生だったそうですが、ビキニ水爆実験による放射性物質を含む雨を浴び、体をむしばまれてしまったのです。今、私たちも青春時代を送っている高校生ですが、夢や希望を奪い去ってしまった核を許すわけにはいきません。今後、世界中で核兵器が使われないようにすることが、私たちの使命であると思います。

東日本大震災が起きて、絶対に安全だと言われていた原発が事故を起こし、多くの被曝者を出しました。被災した高校生の言葉で「電気、ガス、水道、なにもかも止まってしまう仕方なく家の近くにあった井戸水を放射線量が高いとは知らず、飲んでしまいました。放射能を体の中に大量に入れてしまったので将来、病気になるかもしれないのでとても怖いし、不安です。」この言葉は原発が体だけでなく心にも大きな傷を負わせてしまったことを物語っています。このような思いをする人を二度と出してはなりません。山下さんは、お話の最後に、「福島とつながることで自分の生き方を考えてほしい」と私たち高校生にメッセージを寄せられました。私たちは核の恐ろしさを周りの人に伝えていき、自分たちに何ができるのかこれからも考えていきたいと思っています。

2日目からは、5つの分散会でレポートを聞き、討論しました。レポートの内容は生徒会活動や学校行事、各地区での交流会の内容、従軍慰安婦問題、非正規雇用の問題、そのほかに近年、急速に普及しているスマートフォンの影響、SNSをめぐる問題についてなど多岐にわたっていました。生徒会活動報告では、各校で工夫をこらした行事などを発表しあい、より良い高校生活を送るためには、どうすればよいか意見を出し合いました。各地区での交流会の内容については、どうすれば参加者をもっと増やせるか、など会を充実させるための話し合いが行われました。従軍慰安婦問題については、今年の5月にある政治家が発言したことで大きな波紋を呼びました。従軍慰安婦という制度は明らかな人権侵害であり、正しい歴史認識を持つことが重要だと思いました。高校生に普及しているスマートフォンについては「歩きスマホ」の危険性が指摘されており、所有している私たちは注意をすべきだと思いました。SNSについては手軽で便利に利用できる反面、犯罪や事件に巻き込まれる危険性があることを知った上で安全に利用することが大切だと思いました。非正規雇用の問題については、自分たちの近い将来に関わることであり、ひとりひとりが労働実態の現状を知り、憲法13条に謳われている「幸福追求権」を実現するためにはどうすべきか、考えていくことが大切だと思いました。

この3日間で学んだ多くのことをしっかりと自分の胸に刻み、今後の自分の生活に生かし、周りの人へと伝えていしましょう。そのために自分に何ができるかを考え、行動しましょう。

私たちは見ました 福島の現実を
私たちは学びました 核の恐ろしさを
私たちは考えました 地域や学校のことを
私たちは広げていかなければなりません
伝えよう 学んだことを
考えよう 仲間とともに
広げよう 仲間の輪を
行動しよう 未来のために

2013年11月24日

平和・人権・民主主義を考える第49回全国高校生集会